

平成29年8月9日

学識経験者 湊 憲 治

はじめに

本報告書は、教育委員会が実施した事業についての点検・評価結果を議会に提出するとともに、市民に公表することにより、説明責任を果たすだけでなく、教育行政の改善充実を図り、効果的な教育行政の推進に資するためのものであります。

そこで、子どもたちをはじめ、阿波市民にとってこれまで以上に有益な教育行政が行われることを願って、客観的な視点で所見を述べさせていただきます。

1. 点検・評価の方法について

阿波市第1次教育振興計画（後期計画）で策定した「5年間の主要事業」全73事業ごとに評価シートを作成し評価しています。評価対象が施策でなく、事業であるという評価手法の違いはありますが、徳島県内外でこれだけ多くの事業の評価・点検を行っている市町村は少ないと認識しています。

また、今年度は昨年までの評価シートに改善がなされています。さらに、すべてではありませんが、重要施策の業績評価指標一覧も添付されており、点検・評価の方法について改善に取り組む前向きな姿勢は、評価できます。

ただ、全体的にはどのような基準で評価しているのか、評価の根拠が見えにくいのは否めないと思います。（学校現場でも毎年学校評価を行っていますが、すべての子どもたちや保護者、教職員を対象にしたアンケートや各種調査資料を参考にして、教職員がどれだけ実施したかだけでなく、子どもたちがどう変わったか、子どもたちや保護者の声も踏まえて総合的に評価しています。）教育の成果は数値で把握しにくいものもあるので、定量的な評価だけでなく定性的な評価も取り入れ、適正な評価を行うことが、適切な事業の見直しとなり、より効果的な教育行政の推進につながると思います。

また、教育委員会の施策である以上、教育委員会の方針のもと、指導、助言を行いながら実施されるものでありますが、事業によっては、教育委員会のかかわりがわかりにくい記述となっています。

2. 主な事業について

(1) 学校教育関係

今年の3月に公示された新学習指導要領では、グローバル化に対応するため英語教育の強化が示されていますが、阿波市では他郡市に先駆けて英語講師を配置し、小学校1年生から英語活動を行っています。さらに試行ではありますが幼稚園から英語講師・ALTによる英語活動を行っています。このような進取の姿勢は、教育行政において何より大切であると思います。

阿波市では、食育を基礎とした学校教育活動を進めています。学校で食育を進める上で最も有効な教材は給食です。阿波市給食センターでは、食の安全安心に努めながら地元食材を積極的に活用するとともに、食育情報満載の献立表を毎月配布しており、学校における食育に大きく貢献しています。

また、学力向上推進講師派遣事業として各小・中学校に非常勤職員を8名配置していますが、子どもたちへの細やかな対応を図るためには、マンパワーの充実は欠かせません。今後教員定数等の減少が見込まれますので、なお一層の充実をお願いします。

学校の施設設備については、予算の関係もありますが、施設の長寿命化工事や時代に即した教育の実践に必要な整備の充実に向けて、毎年計画的に整備がなされています。特にICT機器については全小・中学校にタブレット型PC、デジタル教科書、実物投影機等が整備されています。ハード面の充実は県内外においても先進地域であると実感

しています。

ただ、ICTは、わかりやすい授業を行うための有効なツールではありますが、授業のベースに授業改善に前向きな教員の姿勢や熱意があることが不可欠です。確かな学力育成事業の教育委員会評価（2次評価）に「教員の意識改革を行い学力向上に…」との記述がありますが、まったく同感であります。そして「意識改革」が成されるか否かは、教員各自の意識の問題もありますが、管理的立場にある者のマネジメント力や姿勢に係る部分が最も大きいと思いますので、関係者のさらなる努力を望みます。

国・県そして阿波市、さらには各学校においても、いじめ防止基本方針を策定し、いじめの根絶に向けて取り組んでいます。第1次教育振興計画の推進計画においても、その方向性が示されており、いじめの根絶は喫緊の課題であります。教職員の指導力とカウンセリング能力の向上事業で、いじめに関する調査や相談活動の充実が図られておりますが、豊かな心の育成事業における人権教育、道徳教育の推進において、いじめの記述がありません。今後の事業に位置付けていただき、命を大切にする心や思いやりの心を育成するなどの積極的な指導をお願いします。

（2）社会教育関係

市民として図書館をよく利用していますが、市民サイドに立って利便性がよく、蔵書も充実しています。これは指定管理者制度を活用した効率的な運営の成果であると思えます。人口1人当たりの蔵書数、図書購入費とともに県内8市の中でも一番多いようですが、図書の有効活用と児童生徒の学習環境の整備という視点から、今後は学校図書館との連携も進めていくべきだと思います。そして、今後とも生涯学習の拠点となるように蔵書や施設の充実に努めてください。

また、生涯学習アンケートでは、市や公民館の講座に参加した経験がない市民は、約7割になりますが、幅広い世代や地域の市民が参加できるように開催場所等の工夫を行い、阿波市民として一体感が感じられるような取組をお願いします。

スポーツ振興は、体力や運動能力の向上という目的に加え、青少年の健全育成や阿波市の大きな課題である生活習慣病の予防等においても大切です。そこで、「市民ひとり1スポーツ」を合い言葉に「スポーツのまち阿波市」をめざしていますが、幅広い世代が気軽に参加できる事業の実施が重要になってきます。シティマラソン等の発展的見直しを行うために見直し・改善事業を実施していますが、このような前向きで謙虚な姿勢を今後とも継続してください。

青少年の健全育成においては、中学生を対象とした講演会を毎年実施していますが、講師の選定は、教育委員会と学校が連携し、生徒の課題等を踏まえて行っており、効果的な事業となっています。今後とも継続してください。また、阿波市における大きな課題は、非行防止よりも不登校・ひきこもりであると実感していますので、関係機関、特に青少年育成センターと阿波っ子スクールとの連携強化が重要であると考えます。

おわりに

阿波市においても人口減少、高齢化が急激に進行しており、人もお金も大きく制約される時代になっています。このような状況では、確固たる「ビジョンや理念」を踏まえた上で、目的を効果的に達成するための「戦略」も重要であると考えます。つまり、人の意識を変えたり、動かす仕組みを工夫することです。また、年度ごとの重点目標を立てるなど事業の「選択と集中」を行い、メリハリをつけることも大切であると思えます。

そのためにも、今後とも事業の積極的な点検・評価を実施することで、施策の改善充実を図り、市民から信頼される教育行政が推進されることを期待しています。

平成29年8月18日

学識経験者 佐光 晴美

はじめに

平成28年度は、阿波市第1次教育振興計画（後期計画）の初年度でありました。

各課の実施事業に、多額の予算が配当され、多岐にわたる数々の事業が実施されていることから、市として教育に重きを置いていることが伺われます。このような中、日々阿波市教育ビジョンの基本目標・教育目標の達成に向け、教育行政に取り組んでおられます教育委員会をはじめ関係者の皆様に敬意を表します。

この報告書は、議会への報告とともに、市民への説明責任を果たすという役割を持っています。そこで、一市民としての目線から所見を述べさせていただきます。

1. 点検・評価について

事業ごとに記載事項が1ページに配置されている形式は見やすく、PDCAのサイクルを生かし事業を実施していることが分かります。

これまでの記載事項に事業の対象（対象・意図と結果）、課題や今後の方針が追加されたことや重要施策の実績評価指標一覧が添付され、事業の進捗状況が昨年より分かりやすくなったと感じられます。

市民がこの報告書を読むことを考慮すると、施設の整備や講座の参加者等、金額や回数・人数として数字で表しやすいものは、実績状況が分かりやすいですが、数値化になじみにくい事業については、実績状況や今後の方針の項目で、できるだけ平易な言葉で具体的な記述がなされるようお願いいたします。そうすることで、次年度の事業の方向性がより明らかになり、多くの市民から各事業への理解や支援が得られやすくなるものと思います。

2. 施策の進捗状況について

(1) 学校教育

学校教育に課せられた課題は、確かな学力の育成、豊かな心の育成、体力の向上、食育等々多岐にわたっています。これらすべての事業についてAまたはB評価となっているのは評価できます。

学校施設の整備については、校舎等の耐震化を終え、その後の長寿命化工事や空調設備の導入など、時代に即した整備が計画的に進められているのは評価できます。

学力向上推進講師の配置や昨年導入されたタブレット型パソコン等を活用した教育活動が積極的に行われ、児童生徒の学力向上に組織的に取り組んでいることが分かります。ICT活用に関する研修会や次期指導要領を見越したアクティブラーニングの研修会を開催する等、教職員の資質向上にも取り組んでいることも評価できます。今後、この取組が、学力向上につながるものと期待しています。

英語活動は、阿波市は独自に英語講師を配置し、先進的な取組を進めていることは高い評価を得ているところですが、1年生からの英語活動に加え、幼稚園にも英語活動を広げようとしていることは評価できます。小学校での英語活動の効果が中学校でどのように表れているのか関心を持つところです。

学力に影響を与える要因である家庭・地域との連携・協働の事業についても、特色ある取組が継続的に実施されていることは評価できます。教育に理解のある人的環境にも恵まれていることは、阿波市の強みでしょう。

今後とも多様なツールを利用して活動状況や成果を積極的に発信していくことで、学校支援ボランティアとして活動に参加してみたいという市民の意欲が高まるものと期待しています。

(2) 生涯学習

学習プログラムの整備・提供については、多岐にわたる講座内容が工夫され、市民のニーズに応えようとする関係者の皆様のご努力に感謝します。

開催曜日や時間については、子育て世代や働き世代の参加が難しいものが多いと感じます。将来的には託児サービスを提供するなど、幅広い世代から数多くの人が参加でき、学習の成果が地域社会で発揮できるような環境づくりが進められることを願っています。

市民のニーズを把握するには、講座受講生へのアンケートだけではなく、未受講生からも広く意見を聴取することも必要でないかと思われまます。また、学習情報の提供については、広報・HPだけでなく市民の目に留まりやすい場所への掲示や自治会を通じた広報・折込チラシの利用など受講生増加の工夫をお願いします。

図書館の運営については、新聞報道でも取り上げられていたところですが、阿波市は町単位で図書館が設置され、資料費も県下では高位となっており、充実したものであることが分かります。職員の対応も親切丁寧で好感が持て、利用者の声を真摯に受け止め、職員の資質向上を図っていることが感じられます。また、館内には、時宜を得た人や出来事の特集コーナー、掲示、ロビー展示やフェイスブックの開設等来館者を増やす様々な工夫が感じられ、その取組は評価できます。

(3) スポーツ・芸術・文化振興

市民のスポーツ・運動に対する関心の高さに対応できるよう、総合型スポーツクラブ、健康教室等幅広い世代が参加しやすい環境が整えられ、実施できていることは評価できます。シティマラソンも市外からの参加も多く、人気の大会として定着していることが伺われます。市内の参加者増につながる取組が進むことを期待しています。

市外運動部の合宿受け入れについては、事前の準備を整え、ぜひ実現させ、市民の競技力向上とスポーツの活性化につなげてほしいと願っています。

文化財の保存活用の施策については、前期計画では、C評価のものが見受けられましたが、事業の見直し等により、平成28年度にはB評価とされています。前期計画の点検・評価が生かされたものと思います。今後とも指定文化財の保存・活用とともに、未指定の文化財が埋没することのないよう調査研究に努めてほしいと思います。

(4) 青少年健全育成

青少年の健全育成も、短期間に効果が見えにくいものですが、巡回指導、相談活動、各種体験活動等関係機関と連携した各事業が、長年継続的に実施されていることは評価できます。

親子参加型の体験活動には、多数の参加者があり、魅力ある活動となっていることが伺われます。プログラムの計画実施には、大変なご苦勞はあろうかと思いますが、マンネリ化することなく多様な活動が展開されることを期待しています。

ブックスタート事業や図書館でのお話し会は、乳幼児期から、家庭教育の重要性を保護者も実感できるよい機会となっていると思います。読み聞かせボランティアを確保し、継続した実施をお願いします。

(5) 人権教育

平成28年度は、ヒューマンフェスタとくしまが、阿波市で開催され、3,000名もの参加者があったことは、市民のみならず県民の交流の場となり、人権意識を高めるために大きな効果が得られたものと思います。関係者の皆様のご苦勞・ご努力に感謝します。

継続的に実施されている指導者養成、講演会、企業職員人権研修会、ばあわーあつぷ事業も成果があがっていることは評価できます。全市民対象の講座・講演会への参加者が、固定化しないよう、今後も講師の選定、開催時期、時間、広報のあり方等について、課題に対する具体的な対策を明らかにした事業の実施をお願いします。また、教育行政のすべての事業において人権尊重の視点に立った取組の継続をお願いします。

(6) 国際交流

2020年の東京オリンピック開催、観光地での外国人の増加等外国人と交流する機会は、ますます増加すると思われます。また、近年の国際化進展の中、国際的視野や感覚をもった人材育成の必要性は高まっています。

学校教育における外国語教育への高評価は、先に述べたとおりですが、市民対象の英会話教室は、4地区で開催され市民が参加しやすい工夫がされているものの課題があるようです。私自身も、ALTによる英会話教室に関心はあったものの、募集案内を見過ごしてしまい受講はかないませんでした。ACNや広報阿波・電子版広報阿波による募集のマイナス面も考慮してほしいと感じました。実績として、参加者の固定化や減少という課題が数年続いています。特に平成28年度は参加者の減少が見られます。評価シートからは、原因は周知方法なのか、学習内容なのか、実施回数なのか、また、課題解決に向け、何をどのように工夫・改善して事業を実施したのかが分かりにくいと感じました。事業の方向性として「見直しのうえ継続」とされていますので、原因を明らかにし、楽しく効果的な事業として継続実施されることを期待しています。

外国人との交流については、C評価という残念な結果でした。市民と行政をつなぐことのできる人材の確保や国際交流関係団体との連携を進め、交流が活発に行われることを期待しています。

おわりに

この点検・評価を実施するにあたり、相当の時間や労力を費やされたことと思います。また、教育委員会でも点検・評価について、熱心に協議されていることも会議録から知ることができました。このような地道な努力が事業の成果として表れていると思います。

しかし、教育に直接関わらずに生活していると、市民のために実施されている数々の事業のすばらしさが、市民にとれだけ認識されているのかと疑問に思う部分もあります。広報阿波やACNで事業の一端を知ることができますが、実施状況や成果をもっと広く市民にPRする価値はあると感じます。

今年度も、役目上、私見を多々述べさせていただきましたが、「人が輝く まちが輝く 未来が輝く (阿波の人づくりプラン)」実現のためにこの点検・評価報告書が生かされ、市民を主体においた教育行政がますます充実されること。そして、阿波市が教育を通して「住みよいまち、住みたいまち」としてより発展されることを祈念いたします。